

# 2021年度 大森老人ホーム事業報告

## 1 事業運営

### (1) 利用者実績等

- ① 定員 130名
- ② 入所率 100.1%
- ③ 入退所状況
  - ア 入所 12名 (在宅5名、病院3名、更生施設4名、措置替0名、その他0名)
  - イ 退所 12名 (死亡4名、長期入院1名、施設入所5名、措置変更1名、その他1名)
- ④ 介護保険サービス利用状況 (令和4年3月末現在 在籍者数130名)
  - ア 要介護認定者 41名 (31.5%)
  - イ サービス利用者 34名 (26.2%)

### (2) 苦情処理

- ア 苦情処理件数 2件
  - 入所者からの他入所者の言動に対する苦情1件、施設の冷暖房に関する苦情1件
- イ 苦情委員会への報告 0件
  - 報告を要する苦情申立はなかった。

### (3) 軽微事故・ヒヤリハット 678件

区分	事項	件数	内容
軽微事故 483	転倒・転落	157	椅子やベットからずり落ち尻餅・買物帰りの転倒・他者に背中を押されての前のめり・ベランダでの転倒による頭部打撲・介助浴利用者の浴室転倒・座り損ねによる転倒等
	対応ミス	100	誤配膳(氏名違い)・退院後の入浴洩れ・タクシー代領収証の紛失等
	服薬・配薬	10	誤薬・服薬確認忘れの残薬等
	その他	216	深夜の非常口からの外出・浴室ベンチに便付着・施設内マスク未着用・室内での喫煙・洗濯物ポケット内確認不足・オムツ棚に便付着物の放置・保険証戻し入れミス・濃厚接触疑い隔離者の共用部歩行・マスターキーの破損・介護浴対象者の一人入浴等
ヒヤリハット 195	転倒・転落	55	立ち上がり時のふらつき・床濡れによる転倒リスク等
	対応ミス	34	食堂棚の開閉扉の閉め忘れ等
	服薬・配薬	8	配薬中での薬落下リスク等
	食事・誤嚥	6	同姓誤認に伴う食事提供対応ミス等
	その他	92	吸引器の台車車輪外れリスク等

- 朝の申し送り時に前日のヒヤリハットを報告し、ケース内容と対応策の共有を図っている。
- 毎月開催しているリスクマネジメント委員会で、前月の状況と対応策を再確認・再検討。
- 必要な対策やヒヤリハットでの気づきを、リスク・感染症・安全衛生研修会（職員会議）で行い全職員に周知している。
- 新区分基準表を11～12月で職員周知に努め、2022年1～3月で試行した。これに伴い、発生事象に応じて、未然と有事に分けて、有事はすべて事故・軽微事故として分類することとし、職員への周知と記録方法について見直した。

#### (4) 感染症

##### (インフルエンザ)

インフルエンザのまん延予防対策の実施

- ①手洗い・うがい・マスク着用の推奨
- ②「インフルエンザ予防接種」（利用者111名、職員31名）を11月13日に実施。
- ③発熱者の居室隔離は解熱後2日間の観察、検温時に37.0℃以上の場合は、一旦経過観察ののちに隔離解除の可否を見極め、対応の徹底に努めた。
- ④今年度（2021.4月～2022.3月）の発熱者は計47名。

以上の結果、今年度において利用者及び職員のインフルエンザ発症者はなかった。

##### (新型コロナウイルス)

###### 【感染報告】

###### ○ケース1（入所者）

- ①発生年月日：2022年1月27日 ②性別・年齢：女性（90歳）
- ③症状・対応：施設内で熱発のため受診。抗原検査で陽性反応。帰園後は簡易陰圧装置設置の居室で隔離対応。入院調整も不可。10日間の隔離期間終了後、保健所指示により隔離解除とする。

###### ○ケース2（入所者）

- ①発生年月日：2022年2月15日 ②性別・年齢：男性（69歳）
- ③症状・対応：検査入院のため医療機関に通院。前日のPCR検査結果で陽性反応のため入院不可となって帰園。簡易陰圧装置設置の静養室で隔離対応。翌16日の同フロア入所者全員に抗原検査実施（全員陰性）。入院不可で10日間の隔離期間終了後、保健所指示により隔離解除とする。

###### 【拡大防止策】

新型コロナウイルス感染予防策について以下のとおり実施した。

- ①新型コロナウイルス感染発生以降は、施設の標準予防策として、「うがい・手洗い・マスク着用」の周知徹底に努め、継続的に実施してきた。
- ②訪室時（毎朝6時）の検温実施。37℃以上の場合は居室隔離。職員は出勤前の検温と発熱時の自宅待機を周知した。
- ③病状安定者や遠方通院者等には、嘱託医や主治医と連携し電話や処方箋での対応を行い、外部との接触機会を最小限とするなどして感染予防に努めた。
- ④利用者の外出および面会時間に制限を設け、いずれも短時間での対応とするよう行動の自粛への理解と協力を求めた。
- ⑤感染の収束見通しが立たないなか、緊急事態宣言・まん延防止等措置等が繰り返された。ホームの自主的な行動自粛の継続については、入所者の協力を求める困難性があったが、度々の周知によって一定の理解が得られるようになった。
- ⑥外泊者、退院者、新規入所者には、原則2週間の居室隔離対応を継続実施した。感染者及び濃厚接触者の待機期間の短縮に伴い順次対応したほか、施設独自の自主規制についても嘱託医の意見を求めながら状況に応じて隔離期間等を短縮。な

お、食事は2グループに分け、過密を避ける食事提供は現在も継続している。

- ⑦クラブ活動、地域交流に関する活動、ボランティア活動等は感染防止の観点から中止してきたが、利用者のADL低下が懸念されることから、感染防止策を講じつつ徐々に活動再開に努めた。
- ⑧感染拡大防止策として「簡易陰圧装置」導入の東京都補助金を申請し、3台の導入を行った。静養室に常設設置したほか、居室内設置により感染者の隔離状態を維持するとともに、対応する職員の予防対策に効果的であった。

#### 【検査体制の強化】

- ①職員のPCR検査は日本財団の支援を受けて実施した。厚生労働省及び東京都からは、高齢者施設でのクラスター発生が多発している現状をふまえ、検査頻度を高めるよう要請があり、週1回の定期検査を継続的に実施した。
- ②施設内での検査体制強化のため東京都を通じて厚労省が提供する「抗原検査キット」を確保した。また、職員の濃厚接触者対応として抗原検査キットによる待機期間短縮の通知を受け、施設として入所者・職員分のキットを緊急に確保し、感染者発生時にこれを活用して感染拡大に努めることができた。
- ③また感染拡大による医療機関が受診できない等の事態に備え、職員・家族の自主検査による早期判定を可能とするため、職員希望者に「抗原検査キット」を有償での提供に努めた。

#### 【新型コロナウイルスワクチン接種】

- ①利用者には大田区巡回接種業者による接種を実施。ワクチン接種の意向調査をはじめ予診票・接種券についての説明および各自主治医の確認等に対応した。  
ワクチン接種日、接種者数は次のとおり。  
1回目：2021年7月7日 100名  
2回目：2021年7月28日 101名（9月6日 3名）  
3回目：2022年2月17日 96名（3月23日 6名）
- ②職員は各自で集団接種会場・医療機関で接種  
希望者全員が接種済

#### (5) 福祉サービス第三者評価受審結果（評価機関：にこにこ福祉の会）

- ① 契約日 2021年7月21日 訪問調査日 2021年10月25日
- ② 全体講評
  - 特に良いとされた点
    - ・機能訓練教室、介護予防教室等、フレイル予防を外部講師の協力を得て多彩なプログラムを取入れている。また利用者自身の健康維持の意識向上にも取り組んでいる。
    - ・コロナ禍で地域の高齢者や関係者への支援を継続している。利用者主体の登校時の見守り、児童館での映画会を通じて世代間交流に努めている。
    - ・施設独自の意向調査により日常生活場面の充実を図っている。「生活のしおり」は利用者に分かりやすい。作業手順書は適宜見直しされて活用している。
  - さらなる改善が望まれるとされた点
    - ・個別支援のあり方や介護保険制度によるサポート体制を推奨し、職員の介護業務負担軽減に繋げることが望まれる。
    - ・「職員同士のコミュニケーション」「気軽に悩みを話し合う場がほしい」との職員からの意見がある。個人面談のほかに今後の職場環境づくりに期待したい。
    - ・施設として災害や感染症等のBCPは今後検討が必要だと認識しているが、自然災害が多発していることを踏まえ、一層の整備が必要と思われる。

## 2 事業課題への取り組み

重点事項	結果（取組内容、評価、今後の課題）
(1) 利用者本位の事業運営	
<p>① 利用者一人ひとりの状況に応じた個別支援計画書に基づく支援の実施</p> <p style="text-align: center;">＜評価＞：A</p>	<p>＜取組内容＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○利用者が入院によって生活に変化が生じた場合、また ADL 低下、認知機能の低下等が見られた場合には、支援計画を見直し、職員が常駐するフロアへの居室移動を検討した。</li> <li>○日常支援において、日々利用者の思いをモニタリングして、適切なアセスメントに基づく支援計画の作成、更新を行った。またケース会議では各職種の専門的知見を得て、支援の方向性についての共通認識を深めることができた。</li> <li>○職員のスキルアップについては、コロナ禍でのリモート対応が日常化したことにより、リモートによる研修方式が広く普及し、変則勤務体制の職場においては有効な研修方法となった。</li> <li>○サービスマナーの設定や振り返りは、担当職員が中心となって職場内の調整及び周知に努め、自己反省の機会としても有効であった。</li> </ul> <p>＜今後の課題＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○モニタリング、アセスメント、支援計画、計画更新は常に利用者の自立に資する支援であることを念頭におき、短期目標のみならず、中長期目標についても利用者および措置元との共有に努める。</li> <li>○職員の経験差によって、利用者が抱える問題・課題の抽出に差異があることから、職員間での意見交換の場を実務的な研修の機会と捉え、スキルアップの一方法として定着化を図りたい。</li> </ul>
<p>② 利用者の生活自立度の維持向上を図る支援の推進</p> <p style="text-align: center;">＜評価＞：A</p>	<p>＜取組内容＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○年 2 回の健康診断及び嘱託医との連携により、利用者の健康状態の的確な把握・早期発見に努めた。</li> <li>○口腔内の清潔及び義歯調整等については、看護師より訪問歯科医に繋ぎ支援員と連携して利用者の口腔ケアに対応することができた。</li> <li>○介護予防として PT による介護予防教室「ホームで元気」を通し筋力維持を主眼とした活動を実施。歩行不安定な利用者に向けて適切な福祉用具の選定助言を受け、自立生活支援に繋げることができた。</li> <li>○自立度の高い利用者呼びかけ「生きがい活動」として、梅ジュース・すいとんづくり等を行ってきたが、コロナ禍のため昨年引続き担当栄養士のみで行い、活動内容の広報誌での紹介に留めた。</li> <li>○地域活動としては利用者有志による通学時の小学生見守りボランティアや近隣のごみ拾いなど、自主性に応じて参加できるようにした。</li> <li>○スリッパ等踵のない履物は着用禁止を促し、体調に合わせてポータブルトイレの設置や居室内の整理など個別に環境整備を行い、自立支援と転倒防止に努めた。</li> <li>○集団生活場面としては、一堂に集う全体懇談会を中止し、感染予防策として過密を避けるため座席の配慮と時間調整を行い、各階ごとに分散してのフロア懇談会を毎月開催（のべ36回）した。</li> </ul>

	<p>&lt;今後の課題&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○介護予防では、PT からのアドバイス(評価)を職員同士が共有し、利用者の介護予防意識を高め、活動への参加意欲に繋がるよう努める。</li> <li>○具体的には施設行事やクラブ活動への参加、日常的なボランティア活動への参画、自主的なフレイル予防対策の見える化（記録化）に繋がる通称「チャレンジカード」を作成・配付して活用を図る。</li> <li>○利用者の自立度に応じて、在宅復帰支援、地域活動への積極的参加、生きがい就労支援など、自立度を高める支援に努める。</li> <li>○地域包括支援センター等地域の関係機関と連携して、地域における介護予防・フレイル予防対策について、感染症状況を踏まえながら実施可能性について検討する。</li> </ul>
<p>③ 施設生活がより活性化 する事業の実施</p> <p style="text-align: center;">&lt;評価&gt; : A</p>	<p>&lt;取組内容&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○利用者の自立度は個人差があるため、その状況や意向に配慮しながら、過度の支援にならないよう外出や買物など個別支援を行った。</li> <li>○居室への閉じこもり防止、利用者同士の交流を目的に、感染予防に留意して毎月定期的に「喫茶」（集いの場）を設置。飲料提供を行うとともに参加呼びかけ・拡大に繋げることができた。</li> <li>○大掃除は、感染予防を図りながら共用部を中心に実施した。また「居室内避難時の動線確保」や「ナースコール設置場所点検」を兼ねて居室内の整理整頓の意識づけを行った。</li> <li>○また併せてベランダ点検を行い、私物の撤去など避難通路確保について入所者の理解と周知に努め、清掃分担や協働作業の意識づけにも繋がった。</li> <li>○広報紙「ほほえみ」を毎月発行し、施設からの情報、実施行事や予定事業、栄養・健康などの情報を掲載した。「親しみある、また生活に生かせる」紙面づくりを心掛けて提供することができた。</li> <li>○コロナ禍において行事やクラブ活動の縮小・中止を徐々に再開した。また利用者と職員が連携して作業分担しながら装飾品づくりや行事を楽しむ等の工夫に努め施設活動への参加を促した。</li> <li>○買物支援の一環として、今年度から総合品を扱う出張販売（毎月）と衣類販売（年2回）を継続実施した。買い物は利用者にとって楽しみの機会ともなり、また歩行困難者には貴重な購入機会となった。</li> <li>○また洗剤、トイレトペーパーなど日用品等は、カタログによる通販システムを活用し、利用者の購入要望に応じるよう努めた。</li> </ul> <p>&lt;今後の課題&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ホームでの集団生活のなかで孤立しないよう、また生活の楽しみや生きがいにもつながるよう、個別の能力やニーズに合わせた参加型活動の拡大に繋がるよう心掛ける。</li> <li>○安心・安全なホームでの生活について、利用者が気軽に相談ができ、職員と協力して課題解決に繋がるよう努める。また利用者同士の協力体制が生まれる支援のあり方を目指す。</li> <li>○出張販売・カタログ通販での買い物支援が可能となり、利用者の利便性が高まった。今後とも多様な利用者ニーズに応えられるよう施設対応との兼ね合いにも配慮しながら検討する。</li> </ul>

	<p>○広報紙「ほほえみ」の内容を充実させ、また施設と家族・地域をつなぐツールとしての機能強化のためにリニューアルに向けた編集会議を重ね、新年度からの発行を目指す。</p>
<p>④ 施設の秩序維持の支援</p> <p>&lt;評価&gt; : B</p>	<p>&lt;取り組み内容&gt;</p> <p>○新規入所の方に対して、基本的には「生活のしおり」を説明することで施設の決まりを周知した。</p> <p>○認知機能の低下や精神疾患等により、施設ルールが理解できない方や守れない方は、入所者同士のトラブルに発展するケースも多く、その都度職員が対応してルールの習慣化に努めた。</p> <p>○なお、施設ルールを守れない方に対して、個別面談や区の担当者を変えた面談を行い指導と理解を求めた。さらに居室内喫煙を繰り返し、ニコチン依存症で改善が期待できない方には、措置元と協議して措置替え等について協議・検討した。</p> <p>&lt;今後の課題&gt;</p> <p>○「生活のしおり」の見直し、更新を行うとともに養護施設の特徴を理解できるよう、説明資料等の充実に努める。</p> <p>○利用者の生活・健康等の情報に関して、措置元との連携を緊密にして情報共有に努める。措置理由が改善され、在宅での自立した生活が可能と思われる方には、在宅復帰に必要な支援を講じる。</p> <p>○利用者への情報提供や周知策としては、掲示物（食堂・浴室等）を活用するが、掲示方法等についての見直し、更新を行う。</p>
<p>⑤ 事故の防止対策</p> <p>&lt;評価&gt; : A</p>	<p>&lt;取組内容&gt;</p> <p>○転倒防止に向けて踵のある靴の着用を促し、ベッドからのずり落ち予防として電動ベッドの導入、床センサーの設置、福祉用具の活用を行い事故防止に努めた。</p> <p>○入浴事故の防止策として、一般浴時間内は定時の浴室点検を行い、浴室内(湯舟)も併せて目視確認することを周知・対応している。</p> <p>○点検忘れの予防策として、担当職員は専用名札を装着、専用ボードへの点検者記名、終了後はリーダーへの報告も求めている。また安全のため一人入浴の禁止や名札の掲示を周知している。</p> <p>○浴室のすべり止めテープの貼り直し、滑り止めマットを必要な場所に設置してより安全な入浴に努めている。</p> <p>&lt;今後の課題&gt;</p> <p>○状況に応じた咄嗟の判断・行動に繋げるため、職員特性の把握と的確な行動に向けて定期的な判断点検と対応の共有に努める。</p> <p>○特に新人職員に向けては事故防止に必要な研修機会を設ける。</p> <p>○利用者の高齢化の進行に伴う認知機能等の低下によって、幻視・幻聴等による異常行動や精神疾患が素因と思われる問題行動が常態化する傾向がある。</p> <p>○そのため職員体制や専門職配置が薄い養護施設では過重負担となり、しいては事故に繋がる危険性が大きいことから、相談・支援・医務間のさらなる情報共有に努める。</p>

	<p>○さらに事故の未然防止を最優先とし、早い段階からの入所者の心身の状況や危険性を伴う行動について、措置元への情報提供と対応協議を行う必要がある。</p>
<p>⑥ 環境整備</p> <p>&lt;評価&gt; : B</p>	<p>&lt;取り組み&gt;</p> <p>○感染症や事故の防止のため、居室内の環境整備の必要性について、利用者個々と全体懇談会の場において随時理解と協力を求めた。</p> <p>○大掃除での居室内点検においては、避難時の動線を確保するため、支援を要する利用者には、担当職員がともに居室整理を行った。</p> <p>&lt;今後の課題&gt;</p> <p>○室内の整理整頓ができない利用者が増え、職員の支援が十分行き届かないことも考慮し、有事に備えて避難動線が確保できるよう利用者へのさらなる周知が必要である。</p> <p>○地震発生時に職員の居室訪問による安否確認を行っているが、突然の居室訪問に驚かれる利用者もいることから、平時においても事前通告による訓練を行い、課題の抽出につとめBCP計画に反映させる必要がある。</p>
<p>⑦ 事業運営に関する評価、意見の把握と反映</p> <p>&lt;評価&gt; : B</p>	<p>&lt;取組内容&gt;</p> <p>○毎月フロアごとの懇談会を行い、各専門職からの情報提供と質疑応答を行って、利用者の意見・意向の把握に努めた。</p> <p>○食事提供では、選択食・食事会・食事イベント（年3回）など、利用者の嗜好にも配慮した食事提供により好評を得ることができた。</p> <p>○第三者評価を受審し、利用者の意見を把握することができた。</p> <p>○利用者アンケートを実施して、意見や要望、各人の思いを伺うことができた。また対応可能な事項の改善・対応に努めた。</p> <p>○感染症対策(手洗い・うがい励行・マスク着用・外出制限)については、対応策の理解と周知徹底に努めた。特に外出制限への協力は困難な点もあったが、繰り返し感染状況等を伝えながら自粛要請を行い、感染発症を最小限に抑えることができた。</p> <p>&lt;今後の課題&gt;</p> <p>○第三者評価での利用者の意見に対しても真摯に対応していく必要がある。今後も職員との信頼関係を維持できるよう努める。</p> <p>○利用者にとって食事は楽しみの機会であることから、要望の程度にかかわらず可能な配慮に努めて満足度を高める対応とする。</p> <p>○提供している給食の廃棄が相当量ある。特に日曜日の昼食の届出のない欠食率が高いことから、事前届出による廃棄量の減少を目指し、利用者にも利用者への理解・協力を要請していく必要がある。</p> <p>○感染症対策は利用者の希望を前提にワクチン接種を行い、重症化予防に努める。また引続き感染症予防対策は状況を見極めながら利用者への周知と理解・協力を求める。</p>

(2) 地域社会に貢献する事業運営	
<p data-bbox="178 293 475 398">① 地域社会とのきめの細かい関係づくりの推進</p> <p data-bbox="272 477 443 510">&lt;評価&gt; : B</p>	<p data-bbox="502 293 678 327">&lt;取組内容&gt;</p> <p data-bbox="502 331 1428 405">○地域の関係者をはじめ、地域高齢者との関係づくりや交流機会の継続的な実施は、コロナ禍のため一部の実施に留まった。</p> <p data-bbox="523 443 751 477">(実施できた活動)</p> <ul data-bbox="544 481 1428 1081" style="list-style-type: none"> <li>・「ホーム DE ランチ」はコロナ禍のため中止となった。これまで参加した地域の高齢者には、安否確認等を目的に地域包括支援センターと連携して「紙面版ホーム DE ランチ」を作成配布した。</li> <li>・24名の対象者には、返信ハガキを同封して安否確認を行い、当ホームとの結びつきを継続できるよう努めた。</li> <li>・大森第五小学校の行事への参加は、コロナ禍のため参加できなかったが、卒業生に向けて「お花紙の壁画」を利用者有志が手作りで作成し贈呈した。</li> <li>・大森第五小学校児童を対象に毎年実施してきた体験型福祉教育は、資料を作成配布してワークシートでの学習に変更し実施した。</li> <li>・児童館児童とホーム利用者との手づくり作品交換交流を行った。</li> <li>・「ボランティアパトロール」と称して利用者主体(任意参加)での登校時見守り活動を行った。</li> <li>・ホームを訪ねてくる近隣の高齢者に日常と異なる状態(様子)の変化が見られる場合は、包括支援センターに連絡し情報共有している。</li> </ul> <p data-bbox="523 1122 839 1155">(実施を見合わせた活動)</p> <p data-bbox="534 1160 1401 1193">新型コロナウイルス感染防止の観点から以下の活動を見合わせた。</p> <ul data-bbox="544 1198 1390 1496" style="list-style-type: none"> <li>・パソコン教室、クラブ活動、行事への地域の方々の参加</li> <li>・大森第五小学校との交流会の開催及び高校生との交流</li> <li>・児童館学童を招待しての映画会は、児童館で映画会として開催</li> <li>・クラブ活動講師や喫茶の手伝い、外出支援行事など参加受入れ</li> <li>・おおたフェスティバルへ出店参加</li> <li>・夜店フェスティバル(近隣商店街イベント)へ出店参加</li> <li>・地域連携による高齢者見守り(認知症高齢者徘徊)訓練の実施</li> <li>・「喫茶」を始めとするボランティアの受け入れ</li> </ul> <p data-bbox="502 1536 708 1570">&lt;今後の課題&gt;</p> <ul data-bbox="502 1574 1252 1648" style="list-style-type: none"> <li>○地域交流事業全体の検証を行い、更なる発展を目指す。</li> <li>○ボランティアの受け入れ体制の整備。</li> </ul>
<p data-bbox="178 1724 475 1906">② 関係機関との連携を強化し、地域ニーズに対応する協力関係の構築に努める。</p> <p data-bbox="272 1984 443 2018">&lt;評価&gt; : A</p>	<p data-bbox="502 1724 678 1758">&lt;取組内容&gt;</p> <ul data-bbox="502 1762 1428 1944" style="list-style-type: none"> <li>○介護サービスの円滑な利用のため、利用者の担当者会議に参加し、福祉用具の使用状況などについて、ケアマネージャーやサービス提供事業者との連絡調整を随時行なった。</li> <li>○課題解決に向け、実施機関と密接な関係を持ち入退所や課題対応に向けた調整を行った。</li> </ul>

	<p>○例年、大田区内の養護老人ホームと連携し、区内の地域包括支援センター職員との懇談会を実施してきたが、コロナ禍のため開催を見送り、昨年同様「養護老人ホームに関する資料」を作成送付した。</p> <p>&lt;今後の課題&gt;</p> <p>○地域理解を更に深めるために地域包括支援センターや居宅介護支援事業所などとの積極的な交流に努める。</p>
<p>(3) 事業を支える安定した経営</p>	
<p>① 効率的な施設運営と必要経費の積立</p> <p style="text-align: center;">&lt;評価&gt; : A</p>	<p>&lt;取組内容&gt;</p> <p>○実施機関との情報交換を緊密にし、要措置対象者の状況把握に努め入所につなげた。一方、新型コロナウイルスの影響により、健康状況や事前検査のため入所までに時間を要するケースが増加した。</p> <p>○入所緊急性の高いケースについては、「緊急ショート」対応として、出来る限り受け入れを行った。</p> <p>○いわゆる「措置控え」と言われるなかで、高い入所率を維持することができたが、待機ケースは少ない状況が続いている。</p> <p>&lt;今後の課題&gt;</p> <p>○経年劣化した設備・備品が多くなっているが、優先順位や必要性の検討・見直しを行いながら計画的に更新する。</p> <p>○東京都との修繕関係事項の追加予算協議を継続して行い、老朽化した設備の改修・更新を推進する。</p> <p>○国際情勢の変化に伴う生産体制の影響から部品供給に遅滞を及ぼし、エレベーター交換等、設備更新計画の見通しが立たなくなっている等の課題が生じている。</p> <p>○エネルギーの高騰による光熱費負担への影響、諸物価高騰による食材費等への影響が避けられない状況下にある。措置費の据え置きはサービスの質の低下を招くこととなるため、経費全体を精査し、節約・節減の実効性を高める必要がある。</p>
<p>(4) 職員の育成</p>	
<p>① 計画的な職員育成指導の強化</p> <p style="text-align: center;">&lt;評価&gt; : B</p>	<p>&lt;取組内容&gt;</p> <p>○個別面接を通じて職員の意向確認と意見交換に努めた。</p> <p>○福祉施設での勤務経験がない職員に対して、介護技術の基本について現場実習を通して指導した。また必要な知識を高めるためスタートアップ研修(WEB)を受講した。</p> <p>&lt;今後の課題&gt;</p> <p>○職員のスキルアップ、処遇改善に資する資格取得の推奨・取り組み。</p> <p>○非常勤職員に向けた面談と技術習熟度を把握し底上げを図る。</p> <p>○職員の資格取得の奨励、資質向上に向けて法人の方針に基づき職員の意欲向上に努める。</p>

	<p>○将来に向けた法人人材の確保のため、法人内事業所間の人事異動及び地域限定・業務限定職員の業務の在り方等、法人としての目標や課題認識にもとづき多角的な検討を行うよう努める。</p>
<p>② 体系的な職員研修の計画と実施</p> <p>&lt;評価&gt; : B</p>	<p>&lt;取組内容&gt;</p> <p>○WEB研修を中心に実施。一部研修項目においては年間で計画・実施できた。救命救急講習においては、有効期限延長への配慮がなされ新人職員を含めて受講することができた。</p> <p>&lt;今後の課題&gt;</p> <p>○より高い専門性を目指し、資格取得促進に向けた取り組みに努める。</p>
<p>(5) リスクマネジメント</p>	
<p>① 危機管理意識・危機対応の周知と実践力の強化</p> <p>&lt;評価&gt; : A</p>	<p>&lt;取組内容&gt;</p> <p>○新型コロナウイルス感染予防取組みに向け「感染症対策会議」を随時開催した。嘱託医とは協議、情報共有を図りながら防止対策に努めた。また利用者の外出制限等の自粛要請についても相談しながら状況を分析し対策を講じた。</p> <p>○リスクマネジメント委員会を毎月開催して必要な対策を講じた。</p> <p>○感染発症時を想定して、体験型研修として「ガウンテクニック」を数回に分けて実施し職員全員が受講。実践に近い学びとなった。</p> <p>○また研修修了者が講師となって、実習を反復することによって職員全体の意識・レベルアップに繋げることができた。</p> <p>○ヒヤリハット報告書(前月分)は、職員への事前配布を行うことによって、委員会では改善策など具体的な提案・意見が多く寄せられるようになった。</p> <p>&lt;今後の課題&gt;</p> <p>○様々な新型コロナウイルス感染予防対策を講じている。また今後も感染症対策は業務継続化の観点からも重要な対策であり、職員の意識向上と危機管理対応の更なる推進に努める。</p> <p>○また地球温暖化の影響から自然災害が多発していることを踏まえ、業務継続計画（BCP）の作成と実践力を高める訓練の推進に向けて鋭意検討する。</p> <p>○安否確認システムの活用による職員（同居家族）の安否確認とBCPの機能が発揮できるよう、日常的な訓練を行い実践力の向上を目指す。</p>

○地域交流活動

新型コロナ感染予防対策のため、交流活動の実施は一部に留まった。

実施時期	項目	内容	開催状況
毎年1学期	大森第五小学校6年生 高齢者学習① オリエンテーション（小学校にて）	コロナ禍のため高齢者体験学習を資料によるワークシート学習に変更実施	実施
毎年夏休み	子ども映画会①	近隣児童館・保育園を招いて映画会	開催中止
毎年8月最終土曜日	美原夜店フェスティバル（近隣の商店街：美原通り）	2013年度から参加 綿菓子2台を出店	開催中止
毎年10月	中学校職場体験（大田区立大森第二中学校）	高齢者体験学習や喫茶やクラブ活動の支援を体験	開催中止
毎年10月	美原高校生によるパネルシアター	福祉部の高校生によるパネルシアター・ハンドベル	開催中止
毎年10月もしくは11月	児童館祭り（大森本町児童館にて）	児童館にてお店の一つとして綿菓子の提供	開催中止
毎年11月	大田フェスタ（区民フェスティバル）	2004年度から参加 綿菓子、とん汁、バザー等出店 準備段階から利用者も参加	開催中止
毎年11月	こども食堂主催のイベント（気まぐれ八百屋 だんだん）	綿菓子・ポップコーンの提供	開催中止
毎年2学期	大森第五小学校6年生 高齢者学習②（小学校にて）	資料によるワークシート学習に変更実施（包括支援センターと共催）	実施
毎年12月	ガールスカウト交流会（ガール主催）	ゲームや歌を通しての交流	開催中止
毎年1回	美原保育園	踊りや歌の発表を通しての交流	開催中止
毎年冬休み 1月10日	子ども映画会②	近隣児童館・保育園を招いて映画会の開催	児童館にて開催
毎年秋頃	大森第五小学校発表会	在校児童による発表会	中止のため地域からの参加なし
毎年2月	中学校職場体験（大田区立大森東）	高齢者体験学習や喫茶やクラブ活動の支援を体験	開催中止
毎年3学期	大森第五小学校6年生交流会（老人ホームにて）	綿菓子交流と昔の歌を皆で歌う	開催中止
毎年春休み	子ども映画会③	近隣児童館・保育園を招いて映画会の開催	開催中止

○地域貢献活動

新型コロナウイルス感染予防対策のため、貢献活動の実施は一部に留まった。

実施時期	項目	内容	開催状況
年間	こども SOS の家 登録 (大田区・大田区教育委員会) 大森第五小学校	2014 年度から 7 年継続実施 子供たちが危険にさらされそうな ときに逃げ込める場所。 大森第五小の安全マップに追加	継続中
年間	大森第五小学校 ベルマーク集めに参加	2014 年度から 7 年継続実施 利用者にも協力して頂きながら収 集。毎年 7 月頃に学校に持ち込ん でいる	継続中
年間	ペットボトルキャップ回収 (アルファ・ジャパンエコキャッ プ事務局に回収依頼)	2014 年度から 7 年継続実施 ※1 キロ 5 円が 2 円に低下。回収率は上 がったがワクチン貢献数が減っている	回収依頼中
年間	ボランティアパトロール (小学生の登校見守り隊)	2016 年 7 月から 5 年継続実施 大森第五小学生の見守りに加え、 保育園児・高校生・都営住宅住民 対象に 7:45～8:30 に実施	利用者 6～7 名参加 年間 121 日 利用者 542 名
年間	クリーンアップ (地域ゴミ拾い)	2016 年 7 月から 5 年継続実施 ホームの近隣のゴミ拾い活動	利用者 10 名 3 日間 40 名
年間	ゴミ捨て隊 (包括支援センター平和島と協同)	2016 年 12 月から 5 年継続実施 さわやかサポート平和島が依頼を 受けた都営住宅の高齢者対象とし ホームと包括と分担して活動	毎週水曜日 47 日 職員 69 名 (合計数)
年間	東京都社会福祉協議会主催 つながれ ひろがれ ちいきの輪 in TOKYO	2017 年度より 4 年継続参加。今年 度は「コロナ禍での活動事例報告」 を行った。	6 月 25 日
毎年 8 月	大森第五小学校 夏休みわくわくスクール ※夏休み中の小学生を対象に様々な 体験をしてもらう地域活動	2011 年度より 10 年継続参加 ①講師を招いてスポーツチャンバ ラの体験 ②リサイクル工作 (牛乳パックを使っ てはがきづくり)	開催中止 ※新型コロナ ウイルス感染 予防のため
毎年 9 月	ICLC 東京日本語学校 ※最近、開校した日本語学校の学生 との交流	留学生の国の紹介や、日本の歌を 一緒に歌い交流	